

「最後の雪に」

東京都杉並区高井戸。遠く富士山や丹沢の山々を見ることが出来る洋風の二間の家。二反程の畑がついていた。今からは想像出来ない田園風景。(大田区戸越公園近く?) 季節は冬の終わり頃。



田舎のわが家の窓硝子の前で

冬のおわりの花びらの雪、

高雅な、憂鬱な老嬢たちが

朝から白いワルツを踊っている。

その窓に近い机にむかって
私の書く光明の詩、
早春の夕がた、透明な運河の
水や船や労働を織りこんだ生気の詩。

雪よ、野に藪に、畠に路に、
そして私の窓の前、
お前たちの踊る典雅なウイナ・ワルツの
その高貴さを私の詩に加えてくれ。

やがて遠い地平から輝く春が

微風と雲雀とのその前駆を送るとき、
古い詩稿に私は愛を感じるだろう、
お前たち、高雅な憂鬱な老嬢たちの
窓の前でのあの最後の舞踏のため、
私の内でいつも楽しい記念のため。

※冒頭部繰り返し

上高井戸の家の窓に近い机に向かって詩作をしている。
窓ガラスの外には雪が舞っている。この時期の雪は湿気
を含む牡丹雪。
牡丹の花びらのような雪が舞い落ちる。その様は若い踊
り子たちのように軽やかでないが、高雅で色香もふくよ
かに匂うが老いを感じ始めた中年婦人—老嬢—が踊るダ
ンスのようだ。

♪ワルツのリズムではあるが軽快ではなく、高貴さを備
えた、やや遅いテンポと繊細な音楽で演奏したい。
具体的に：伴奏部分ベースの1拍目は短くならずテヌ
ート気味で余韻のある四分音符。
二拍目、三拍目を歌うトップ、セカンドについては
二拍目はテヌート、三拍目は二拍目より弱く、減衰
する(文章ではわかりにくいので練習で理解してく
ださい)

自分は今、早春の夕方透明な運河の水や船や労働を織り
込んだ活気に満ちた詩を書いているのだ。

白い雪は野に藪に、畠に路に、そして私の窓の前に降り
続いている。雪よ！その高貴さを私が書く詩に加えてほ
しい。

やがて地平線の向こうから春がそよ風と雲雀とを使者と
して送ってくる。

老嬢たちの舞踏の季節も終わり、地平線の向こうから春
がそよ風と雲雀とを使者として送ってくる。

Q □部の意味

♪この曲も冒頭部分が繰り返される。ワルツは冒頭
部と同じ音楽で！

～この頃の喜八の生活状況～

原稿収入だけでは生活が苦しいため、近隣の農家に農
業の指導を受けつつ農作業に励んでいた。「草取り、日照
り、毎日の来客、次から次へ書きたい原稿、書かねばな
らない原稿。生活は多忙で苦しい」